

## 大気汚染物質除去について

空気とは、我々が生活を営む無色無臭の世界であり地球科学の分野では「大気」と表現されている。

日常会話での空気を簡単に繙くと、空気は混合気体で流動組成物として地表を被覆し常に大なり小なりの動きがあり、移動しながら日々の日常が保たれている。ただ移動速度が大きくなると対該物に衝突する空気の量が増え、特に台風等では、フィリピンを襲った大暴風が示すとおり大きな風圧が生じ巨大な破壊力を生じさせ甚大な被害を齎すことになる。

暴走する空気であろうが平穏な空気であろうが、基準値で示される乾燥空気そのもの重さは摂氏 0 度 1 気圧の時は 1.293g で、一見小さいようであるが、地表付近の空気には大きな圧力（重）がかかり 1 気圧は 1.033kgf/cm<sup>2</sup> なので地表では 1cm<sup>2</sup> あたり約 1kg の圧力が加わっていることになる。

地球の空気は窒素（78.084%）酸素（20.9476%）アルゴン（0.9%）二酸化炭素（0.039%、2011 年の値）他多数の微量物質で構成されている。我々が生活を営む現存する地球の現況空気は、湿潤空気（濃・薄）であり、その空気中に現在では人為的に排出される成分があり濃度が近年著しく変化しているものもある。

現在、問題となっている PM2.5 なるものが、空気中へ混入し呼吸活動により人体に対して危険の指摘を受け WHO の当該部署から警告が発せられている。

そのため松井エコエネルギー社では、増田昌久代表代行を座長に空中に浮遊して飛来する PM2.5 と称されている人為的異物を何等かの手法で解決できぬものかと思案した結果、粒子状大気汚染物質対策座を設置する結論に達した。

その為の対策座構成要員は

座長	増田 昌久	松井エコエネルギー本社	筆頭顧問
第一副座長	水町 茂	〃	顧問
第二副座長	森 保雄	〃	顧問
委員	小野 丸美	(株)松井エコエネルギー延岡	代表取締役
委員	土井 英司	〃	顧問
委員	坂元 基雄	〃	専務
補助員	松井 嗣光	松井エコエネルギー総社	一般社員

弊社が対象とする粒子状大気浮遊汚染物質等の物性は、数マイクロメートル

( $\mu\text{m}$ ) 以下の大きさを対象とし、主に燃焼で生じた煤、風等で舞い上がって汚染されている土壌粒子、工場や建設現場等で生じる粉塵のほか燃焼による排気ガスや原油系等からの揮発成分が大気中で変質してできる粒子などからなる。この種の該物質は主に人や家畜等の呼吸器に沈着して健康に影響を及ぼし粒子の大きさにより、体内での挙動により健康影響は異なるようだ。その影響度を推し量る測定基準値が大きさにより分類されているようだ。

日本では、浮遊粒子状物質などの指標が考案され疫学的には、粒子状物質の濃度が高いほど呼吸器系の疾患や心疾患による死亡率が高くなるという有力な報告がなされている。そのため弊社対策座は、粒子状大気汚染物質なるものの濃度を少しでも減らす事を課題とした。

#### ■手段として

弊社特許取得製品（環境改善装置Ⅱ型）の機能を最大限に活性させ粒子状大気浮遊物質をそれぞれに凝集し沈殿作用を促進させることにより大気中から早急に落下又は墜落させる手段を探究し実践しようと思っている。

#### ■方法論として

これらの物質を大気中層内に浮遊する員外物として捉え、この員外物を凝集しようとするならば、原子→分子→混合化合物（粒子状大気浮遊汚染物質）と形成された員外物を増田考案手法（共鳴呼応法）エネルギーを大気中層間に拋出し、回転トルク（ねじりのモーメント）を介し員外物を励起（混合化合物 + 混合化合物 + 混合化合物 + へ へ へ = 大きな粒子）状態を燕出させ飽和員外物として肥大化させ発生源から近距離で落下できる因子を成立させると共に落下途中で不純物で組成された飽和員外物を増田昌久が考案したタイムマシン発生装置なるもので無害化させ地球環境改善に少しでも寄与できれば幸いと考える。

本案を統轄する責任者として当該対策座構成員其々の研究成果結集結果をここに統括し増田昌久の責任で起草した。

松井エコエネルギー本社 代表 松井 一七代